

◎コンプレッサを使用する前に

コンプレッサを設置するときは、ぐらついた台の上や高い棚など不安定な場所に置かないで下さい。落ちたり倒れたりしてけがの原因となり危険です。適切な場所に設置し、コンプレッサの電源スイッチが“OFF”になっているのを確認し、電源コードをコンセントに差し込みます。電源スイッチを“ON”にし、圧縮空気を吐出することを確認し、その状態で5分程度試運転を行ってください。

異常音(カンカン音等通常と異なる音)が無いか確認してください。異常が無い場合は、コンプレッサ～エアークロス～エアブラシを接続します。

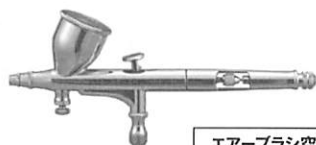
運転中はコンプレッサが熱くなります。火傷する恐れがありますので、操作部分以外は手を触れないでください。

◎コンプレッサと接続する

エアブラシとコンプレッサを接続するエアークロスはエアブラシ専用の作業しやすい、細いホースを使用することをお勧めします。

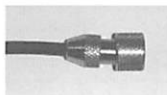
コンプレッサは空気吐出口の大きさが機種によって異なります。エアークロスの空気取入口はG1/8オスが一般的です。(JIS規格)コンプレッサの空気吐出口はG1/8オスとG1/4オスの2種類があります。エアークロスの空気取入口とコンプレッサの空気吐出口に合わせてホースを選びます。

また、ホースのジョイント部分が異なる場合は変換ジョイント(HPA-J1/HPA-J2)を使用すれば接続が可能になります。



エアブラシ空気取入口
G1/8オス

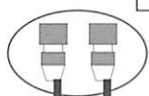
エアークロス取付口



G1/8メス



G1/4メス



ホース:G1/8メス

コンプレッサ空気吐出口
G1/4オス

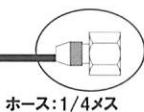
IS-925/875



IS-925HT/875HT



IS-975MB



ホース:1/4メス

コンプレッサ空気吐出口
G1/8オス

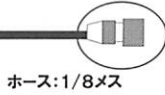
IS-800J



IS-50



IS-850



ホース:1/8メス

◎水分や埃について

梅雨時期や雨・湿度の高い日などは空気中の水分が多く含まれます。その空気を圧縮するため、コンプレッサ本体からホースなどに溜まった水分が、エアブラシから噴出することがあります。

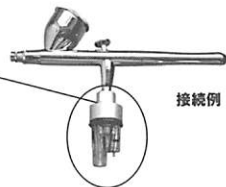
コンプレッサから出る、水・油・塵埃を除去するためには“エアフィルタ”を使用してください。さらにエアブラシに直接接続するミニグリップフィルタ(HPA-MGF)を使用すると、水分除去に効果的です。



フィルタレギュレータ(HPA-FR)



ミニグリップフィルタ (HPA-MGF)



接続例

◎1台のコンプレッサに数本のエアブラシを接続するには？

作業効率を良くするため、1台のコンプレッサに数本のエアブラシを接続するにはコンプレッサやレギュレータ等に分岐するジョイントを接続して、複数のエアブラシを接続する方法があります。

また、エアブラシとエアホースを簡単に取付け・取外しのできるクイックジョイント(HPA-QJ)を使用する方法もあります。



●エアホース(HPA-SH32)

接続したいエアブラシの本数分のエアホースを用意します。

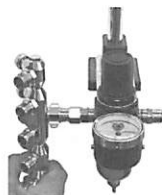
●5連バルブジョイント(HPA-VJ5)

ホースを5本まで接続できるジョイント。バルブコック付で個別に空気調節機能があり、5本接続しなくても使用できます。



接続例①

直接コンプレッサに接続



接続例②

フィルタレギュレータに接続。(フィルタレギュレータはエアブラシハンガーに取り付け可能です。)



●エアホース(HPA-SH32)

分岐するには、エアブラシ・エアホース各2本必要です。

●三叉ジョイント(AJ-1)

2本エアブラシ接続できるジョイント。



接続例

両側にエアブラシを接続します。

Set up

接続方法

◎ IS-50接続方法



コンプレッサと専用のコイルホースを接続します。

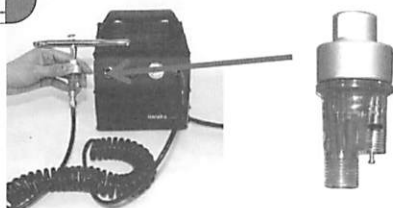


反対側にエアブラシとコイルホースを接続します。



接続完了

Version UP!



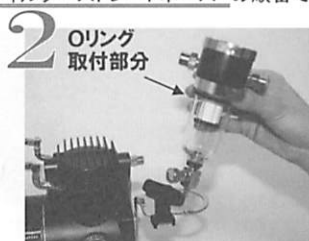
IS-50 コンプレッサにはフィルタが付属していません。水分対策には、エアブラシに直接接続する、ミニグリップフィルタ (HPA-MGF) を取付けることをお勧めします。

◎ IS-800J接続方法

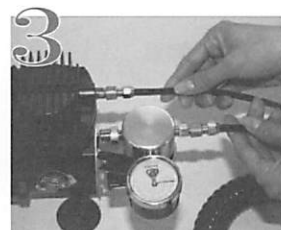
*コンプレッサ～コイルホース～エアフィルタ～ストレートホース の順番で接続します。



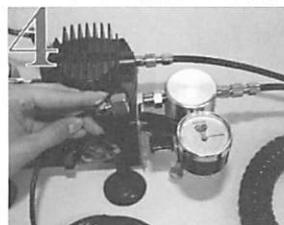
IS-800Jコンプレッサには、エアフィルタ・コイルホース・ストレートホース・Oリングが付属しています。



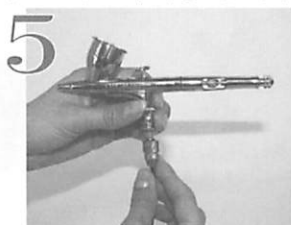
接続する前に、フィルタに振動防止の O リングを取付し、フィルタホルダーにエアフィルタをセットします。



図のようにエアフィルタをセットしたら、コンプレッサ～コイルホース～エアフィルタを、接続します。フィルタの接続口の大きさが異なります。(入口:1/8 出口:1/4)



エアフィルタの出口にストレートホースを接続します。



ストレートホースの反対側にエアブラシと接続します。



接続完了

◎ IS-850 接続方法

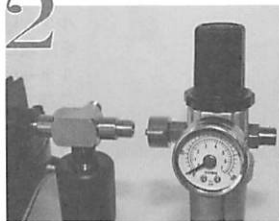
*コンプレッサ～コイルホース～エアフィルタ～ストレートホース の順番で接続します。

1



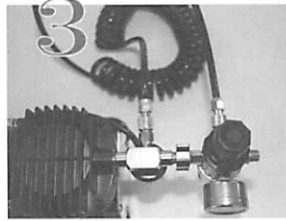
IS-850 コンプレッサには、フィルターレギュレータ・コイルホース・ストレートホースが付属しています。

2



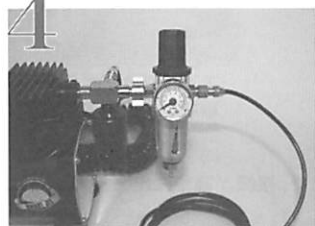
コンプレッサにフィルターレギュレータを接続します。

3



図のようにエアフィルタをセットしたら、コンプレッサ～コイルホース～エアフィルタを、接続します。

4

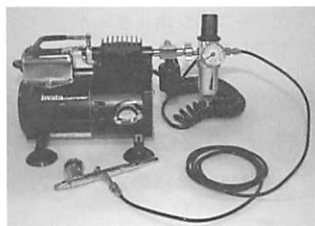


エアフィルタの出口にストレートホースを接続します。

5



反対側にエアブラシとストレートホースを接続します。



接続完了

◎ IS-875/925 接続方法

IS-875/925 はレギュレータ・除湿フィルタが本体に一体化されていて、接続が簡単に出来ます。

1



IS-875/925 には専用のストレートホースが付属しています。コンプレッサと専用のストレートホースを接続します。

2

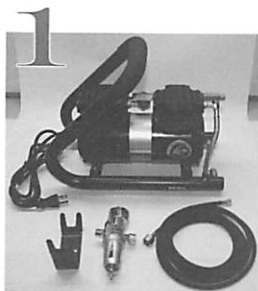


反対側にエアブラシとストレートホースを接続します。



接続完了

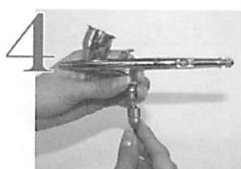
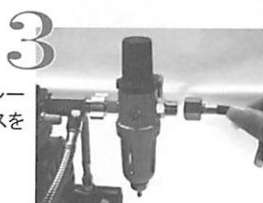
◎ IS-875HT/925HT接続方法



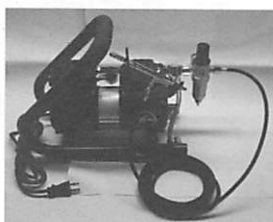
IS-875HT/925HTコンプレッサには、フィルタレギュレータ・ブレードホース・エアブラシホルダーが付属しています。



フィルタレギュレータにブレードホースを接続します。



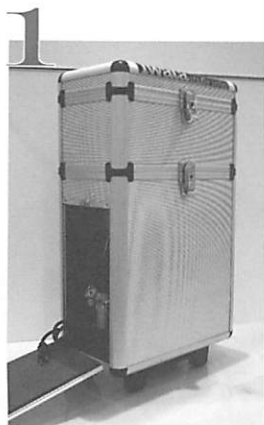
反対側にエアブラシとブレードホースを接続します。



エアブラシホルダーを取り付けて、接続完了

◎ IS-975MB接続方法

IS-975MBは移動式のコンプレッサで取出さずそのままセッティングが可能で、接続が簡単に出来ます。



IS-975MBには、フィルタレギュレータ・ブレードホース・専用ハンガーが付属しています。サイドパネルを開けます。



緩衝材を取り除きます。



ブレードホースを接続します。(オプションで2本のホースを接続することも可能です。)



反対側にエアブラシとブレードホースを接続します。



専用ハンガーを取付接続完了

◎レギュレーターの調節

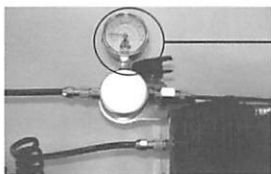
IS-875/925 の場合は、減圧弁+圧力調整ノブにて調節します。
 圧力調整ノブがカッチッと音がするまで引き上げ、時計回り(圧力上昇)、反時計回り(圧力下降)に回転させ、調節します。
 調節後は、圧力調整ノブを音がするまで押し下げてください。



IS-800J の場合は、圧力調整ツマミにて調節します。時計回り(圧力上昇)、反時計回り(圧力下降)で調節します。
 ※IS-800J コンプレッサは空気を逃がしながら圧力を調節する(逃し弁式)もので圧力調節ツマミからエアーが出ていても故障ではありません。

◎使用圧力の目安は？

使用圧力は 0.1~0.2Mpa 程度に調節するのが通常の見当です。エアーブラシを使用すると圧力が下がりますので、使用時に 0.1~0.2Mpa に設定してください。
 圧力を高く設定すると、飛散が多くなり、低いと粒子が粗くなります。



<エアーブラシ使用前>



<エアーブラシ使用時>
 圧力が下がります。

◎終了時のメンテナンス

作業終了後は電源スイッチを“OFF”にし、コンプレッサ内の圧縮空気を完全に吐き出します。

長時間コンプレッサを使用すると、フィルタボールにドレン(水分)が溜まります。

ドレン(水分)をフィルタボールの底部にある排出口を下から押し上げ、圧縮空気とドレンを完全に抜き取る方法もあります。

※注 ドレンが勢いよく吐出しますので、布などを使用してください。回りを汚す可能性があります。



フィルタボールの底部にあるツマミを押し上げます。
 ※水分が勢いよく吐出しますので、布などで、押し上げてください。



フィルタ部分は取外しが可能です。内側を清掃してください。

◎持ち方は？

ダブルアクション



●人さし指

ペンを持つ要領で軽く握ります。微妙な操作がしやすい。押しボタンタイプのエアブラシで最も一般的な方法。



●親指

疲れにくいので長時間の操作や垂直ブラッシングに適しています。微妙な調節には不向き。

トリガーアクション



●人さし指

スプレーガンと同じように人差し指でトリガーを引く方法。



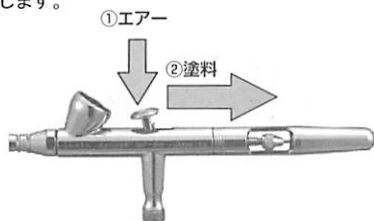
●中指

トリガーを中指で引く方法。

◎操作方法

ダブルアクション

- ①押しボタンを下に押すとエアが出ます。
- ②押しながら(エアを出したまま)手前に引くと塗料が噴出します。



トリガーアクション

- ①軽く握ると空気が噴出します。(一段吹き)
- ②さらにしっかり握ると塗料が噴出します。(2段吹き)

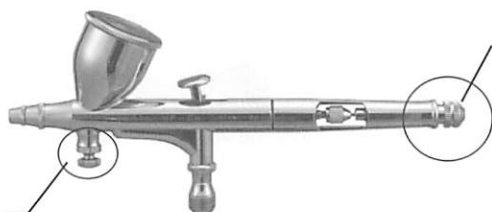


Point

押しボタン(またはトリガー)の引き具合で塗料の量を調節します。

◎機能説明

エアブラシには2つの機能があります。機種によって機能の有無が異なります。



※空気調節ツマミ

手元で空気量の調節が出来ます。

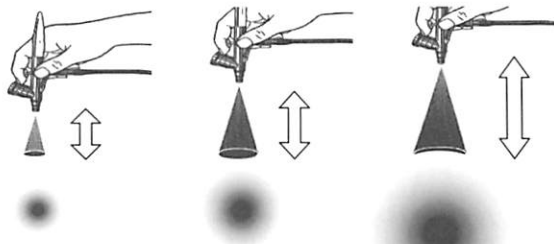
※プリセットハンドル
手元で塗料の噴出量を調整できます。

◎吹付け方

点を描く

エアブラシの噴霧方式は丸吹きです。一度に吹付けようとせず、薄く重ね塗りが基本です。一定のスピードで平行に動かし、均一に吹付けられるように練習しましょう。

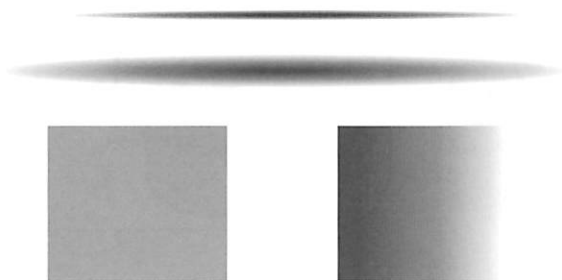
エアブラシを塗装面に近づけたり離したりすることで吹き付けパターンが変わります。距離が近いと小さい点、遠いと大きい点になります。塗料の噴出量を調整しながらいろいろな大きさの点を描いてみましょう。



線・面を描く

点を描いた要領で横に移動させることによって線を描くことが出来ます。点と同様に塗装面に近づけると、細い線、遠いと太い線になります。最初に試し吹きを行い、適正な距離や吹付け状態を確認することで、失敗を防ぐことが出来ます。

面は、太い線を吹き重ねて描きます。距離と塗料の量を一定に保ちムラなく仕上げます。グラデーションも練習しましょう。



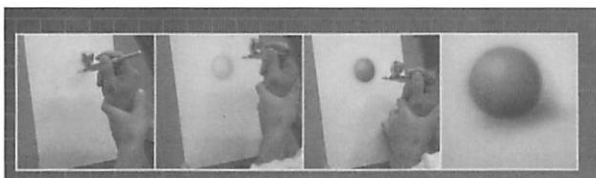
Point

下記のようになってしまった場合は、手の運び具合や塗料の出し方を考えてみましょう。



円を描く

最初から強くラインを描いたりせず、少量の塗料で薄く吹付け、徐々に形をそろえながら球を描いていきます。フリーハンドで綺麗な球を描くことが出来れば、立派なエアブラシペインターです。

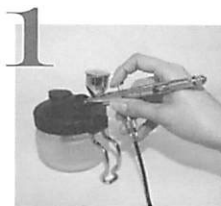


Point

距離や吹付け方法をよく考え、輪郭をシャープにしたり、綺麗にグラデーションを描くことが出来ます。

◎色換え方法

使用後はもちろん、色を換える時はしっかり洗浄しましょう。洗浄を怠ると塗料が混ざり、仕上がりに影響します。汚れがひどい場合やつまりが気になる時は、分解洗浄をおすすめします。



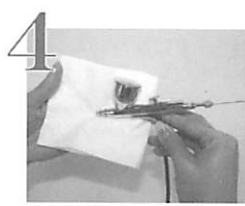
1 カップに入っている塗料を捨てます。



2 水やクリーナーを入れ塗料経路を十分に洗浄します。



3 カップ内の汚れはウォッシングブラシなどを使用し、洗浄します。作業を数回繰返し、カップ内をきれいにします。



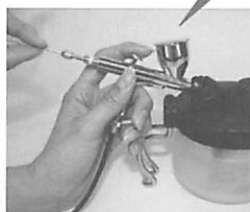
4 エアブラシ本体もやわらかい布やペーパーで拭き取ります。

Point



☆ノズルキャップの先端を指で押さえ、押しボタンを操作すると、ノズル内の空気が逆流し、うがいを行う効果になり、ノズル内を洗浄します。

Point



☆塗料経路を洗浄するとき、ニードルを前後に動かすと水の流れが良くなります。ニードルは曲がりやすいので、無理やり押込まず、丁寧に扱ってください。

Cleaning Item

カップに残った塗料や洗浄時に便利なエアブラシクリーニングポットを使用すれば、ミストが飛散らずクリーンな作業環境が保てます。

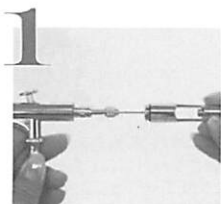
HPA-ACP
エアブラシクリーニングポット



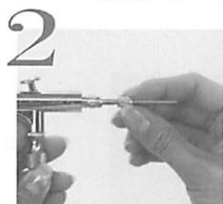
◎分解洗浄

つまりが気になる場合や定期的なお手入れには分解洗浄をおすすめします。洗浄を怠ると、エアブラシ内部で塗料が固まってしまう、つまりの原因になります。

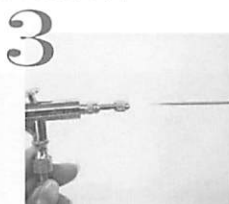
ニードル・ノズルは曲がりやすいので、分解洗浄には注意が必要です。



1 本体のキャップを外します。



2 ニードル止ネジをゆるめます。



3 ニードルをゆっくり引き抜きます



4 次に、ニードルキャップを外します。